

# フランス日蝕旅行 = 曇ったバージョン =

孫 隆二

何故フランス？ 結果としてフランスを観測地の選んだのは失敗でした。フランスに着いて2～3日目わかりました。気象衛星の映像を見ると、なんとイギリス北部スコットランドに低気圧部が常駐しており、何本もの前線が巻き込むようにぐるぐると回転しているのです。ちょうど冬の北海道東部沖アリュシャン低気圧部のようでした。この前線の幅の広い部分にやや晴れ間が広がる程度で、高気圧にどっしり覆われ安定して晴れるという事は少ないようでした。

観測地のパリ北東150 kmのランスも、完全にスコットランド低気圧部の影響下でした。実際フランスに滞在した日の天気も、基本的に曇りで、時々雨が降ったり、晴れたりと、安心して日蝕観測する土地ではありませんでした。事前の資料でNASAが発表した日蝕の見える確率はランスでも45%程度だったのですが、結果論でなくどう考えても楽観的すぎて、せいぜい30%程度であったと思います。事前にインターネット等で、欧州の気象衛星の映像が見られたら、決してフランスを選ばなかったと思います。しかしながら、今回初めて妻がフランスだったら一緒に行きたいという事、姪っ子がイギリスに留学しており、あうのに都合が良いことや姪っ子も日蝕を見に行くのに行きやすいこと、また私の星仲間の奥様が以前フランスに住んでいたこともあり、フランスで日蝕を見るということもあり、私もフランスを選択しました。またヨーロッパは初めてだったこともありフランスという国にも興味があったことも選択の理由でした。

でも、理想を言えば、ほぼ安全圏のトルコで観測して、パリ観光のコースが良かったのですが、当初はコース設定がなく、せいぜいハンガリー観測、ドイツ、パリ観光というものでした。ハンガリーならば晴れる確率も、フランスとそう違わないし、日数予算もオーバーで選びませんでした。

フランスを観測地にしたツアーは私の知る限り二つだけで協栄産業のコンピエーニュ観測地のものと、天文誌SW協賛近ツアーのランス観測地のものでした。SWの方を選択したのは、前々日に観測地に入れること、連泊が多く比較的余裕のある日程また比較的リーズナブルな価格、また5万円ほどの追加でユーロスターでイギリスに行け、2泊できる点。また地方に住むものにとって関空発着も選べることなどです。また、SW協賛ならばケアもしっかりしているだろうと思い選びました。インド、シベリアでリーズナブルな価格で質の良いツアーでお世話になったPTSは今回設定がなく対象外となりました。

ツアーには3ヶ月ほど前に予約をしたのですが、予想に反してインフォメーションが極めてお粗末でした。何しろ観測地のデータ等の資料がなんと出発9日前につく有様。価格が比較的安いとは言え、手を抜いていると言われてもしかたのない対応。とにかく情報が少なく、こちらから要求しない限り情報を出さない姿勢は特に初心者にはお勧めできないものでした。SW協賛としては、はっきり言って期待はずれのものでした。それと値段のせいかすべて食事がオプションであった為参加者の自己紹介の場がなく、またプライバシーの問題もあると思いますが公開しても良い人だけの分だけでもよいので参加者名簿がほしかった。そういう状況だったのでツアー参加者同士の交流もあまり盛んではありませんでした。せっかくの同好の士の集まりなのに。そういう交流も旅の大きな楽しみだと思うのですが、..。少し辛口になりましたが、添乗員さんものりのよいしっかりした方で、観光だけでも充分満足出来る内容でした。

## ★ 旅の実際

8. 7 ソウルで成田出発組、関空組、福岡組と合流して全員で42名となる。やはり観測地の雰囲気な

のかカップル、家族づれが多く、単独参加者は少数派であり、また皆既日蝕経験者は3～4名であった。KE747-400で黄海、渤海上空を飛び、機内の中まで暑いゴビ沙漠を越え、広大な西シベリア平原を横切り、バルト海に出て10時間余りでフランクフルトに着く。ここでEU入国し、パリまでエールフランスで乗り継ぎ、自宅を出て移動に27時間を費やし疲れはてて爆睡する。

8. 8 午前中はパリの市内観光、ノートルダム寺院、コンコルド広場、エッフェル塔。天気はやや曇りがちながら、途中青空も広がる。午後は自由行動で、私達はルーブル美術館めぐり。
8. 9 夜中3時ごろより雷雨で一時滝のように降るが、明け方急速に晴れあがるが再び曇天。午前中は自由行動で、3時より観測地ランスへオートルート（フランスの高速道路）で向かう。途中で何度も雨に降られる。ランス郊外のアメリカンタイプのノボテルホテルに着く。
8. 10 今日も曇りベースの天気、予報では曇り時々雨で、明日は西から回復してくるといふ。午前中はランス市内観光と、より中心線に近いペルチェに下見に行く。北東30kmのペルチェは、穏やかな畑の広がる丘陵地帯で見とおしは良いが何も無い所。お墓の分譲地のように区画されて有料観測地にはたまげてしまう。私達の方も用意されていたが、私はホテルでの観測を選びました。42名中7名の方がペルチェ遠征組でした。

#### 8. 11 日蝕当日

夜中から、天気が気になりろくろく眠れない。時々窓の外を見るが星がただのひとつも見えない。明るくなってもベタ曇状態。天気予報も曇り時々晴れ間ありと、昨日の予報より悪くなっている。ホテルのTVで英国、ドイツ、フランスの放送が見られましたが、どこの国でも日蝕はトップニュースで相当にフィーバーしていました。朝食時でも相変わらずの天気で重い空気の中食事をとる。天気のせい、1時間前頃ようやく人が集まる。第一接触を過ぎても雲は厚く、太陽が見えない。30分経過してようやく雲が薄くなり、欠けた太陽が姿を現わす。しかしすぐに雲が厚くなり長くは姿を見せない。半分ほど欠けた時に雲が薄くなり一部にはぼっかり青空も見え、少し期待感がふくらむが、祈りも虚しくまた雲に覆われる。厚い雲に覆われたまま、皆既が近づき5分前から急速に、まきに見る見るうちに、暗くなるのがわかりました。予定を変更してコロナ用のVX-1000を手持ちで情景撮影用にする。

ホテルの自動照明も3分前からつきだしました。晴れの時よりかなり暗く、手元は暗くて見えないぐらいでした。雲に本影錐が映らないかと注意深く西の空を見ていましたがわかりませんでした。曇っていても皆既の瞬間はまわりのホテルのお客さんからは歓声があがりました。皆既中は地平線がほんのわずかに赤みを帯びたのを確認しました。コロナもダイヤモンドリングもない2分の皆既時間が過ぎていきました。曇っていても皆既の始まりと、終わりはかなり正確に感じることができ、2～3秒後にはすぐに明るさを感じました。こうして沖縄金環食以来、メキシコ、インド、シベリアと快晴が続きましたが、今回初めて曇ったときの皆既日蝕を体験することになってしまいました。確かに曇っても不思議な体験には違いありませんでした。まあ、強がり言えばこれで一人前の日蝕観測家の仲間入りしたといえなくもないでしょう。また、曇られた人たちの気持ちがわかりました。ただ、家族にすばらしいコロナを見せることができなかつたのが残念でした。でも、日蝕のおかげでフランスに連れてきてもらったことを感謝したいと思います。ペルチェ遠征組は雲がやや薄い部分にあたり、何とかコロナが数十秒見られたようです。